

みやわし

第10号

会長：宮城武松
題字：喜屋武磯江
編集：山下博實

定期総会 開催

5議案
を承認



島袋政子さん
手作り絵てがみ

輪投げ大会

換気装置成った
宮里公民館で

三年ぶり 輪投げ大会も同時に

5月26日(木)宮里公民会二階大ホールで宮里老人会みやわし会定期総会が開催された。コロナ禍で三年ぶりの開催である。同時に輪投げ大会を行うという企画が的中、雨模様ながら30名を超える会員が集まり、委任状も含め有効議決権数が75%をこえる総会となった。宮城武松会長、喜屋武磯江副会長のあいさつのあと、大盛英俊議長の進行で五つの議案および役員監事の人事について真剣な審議がなされ、いずれも賛成多数で承認された。最後に新副会長

の新屋千代子さんのあいさつで閉会した。また長年にわたり副会長を務めて来た上江洲安輝さんに、会長よりねぎらいの言葉があった。

(詳細、定期総会資料および議事録参照)

総会議案

- 【第1号議案】令和3年度経過報告
- 【第2号議案】令和4年度決算報告
- 【第3号議案】令和4年度事業計画案
- 【第4号議案】令和4年度歳入歳出予算書
- 【役員監事名簿、友愛訪問活動チーム】



宮里老人会総会(宮里公民館2階大ホール)



輪投げ大会
(宮里公民館2階大ホール)



得点表を前に私の成績は？

10袋あります。皆さん頑張ってください」と明るく開会を宣言した。東江信雄健康増進委員のルール説明のあと、3人ずつが交代で輪投げが始まった。他の人は周囲の椅子から見守る。9本のポールをめがけて9個の輪を投げ、入った輪が縦横ビンゴに並ぶと点数が跳ね上がる。輪が入るたびに歓声と拍手が沸き、「あと一つでビンゴだよ!」と声援がとぶ。見事優勝に輝いたのは96点を出した仲本洋子さん。上位10名の方が最高の笑顔でお米を手にした。出席者全員に参加賞が、そして美味しい弁当まで準備されていた。役員関係者の方々の周到な準備と心配りになんともいえぬ暖かさを感じた。

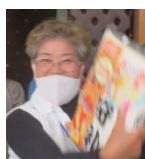
(山下)

きょうのひと笑い(シルバー川柳より)
おのびすれば 足が軽くなる 寝起き前
お見舞いに そろそろ来たら そろそろか
おはようの ラインがくるのは 朝の五時



令和4年度役員監事

役職	氏名
会長	宮城 武松
副会長	喜屋武 磯江
副会長	新屋 千代子
庶務	山下 博實
会計	富田 ふじ代
女性委員	松田 竹子
健康増進委員	東江 信雄
民謡委員	前門 政子
民謡リーダー	比嘉 ミヨ子
地域福祉委員	仲本 洋子
文化教養委員	大盛 英俊
監事	謝花 哲夫
監事	新里 益秀



思い出がいっぱい



宮城中七期会

東江 信雄



サトウキビやたばこのほぼ中央の高台に、宮城中学校があります。私はその中学の第7期生、卒業生は皆で50数名でした。

卒業して30年後、級友の尊父の弔いで同期生が集まった時に誰からともなく「皆でまた集まりたいね。故郷を語る機会を持とうよ」と。そして同期生と当時の恩師二人の「宮城中七期会」が誕生することになりました。会の規約を作り、「相互扶

助」「会員家族の慶弔や見舞い」そして「故郷の島の発展に寄与する」ことをうたいました。それぞれ道を歩いて来た同期生の親睦を永遠のものにするためです。気楽に参加できるように会費は模合にしました。会費の中から一部を積立金として蓄えることで、行事や娯楽そして旅行さらには会員への貸付も出来るようにしました。発足から36年、今でも構成員が十九名と、宮城中七期会は活動を続けています。

月一の模合の食事が定例会です。互いの近況や健康状態が話題になり、会の親睦を保つために必要になっています。新年会もあるいは忘年会は毎年開いて来ましたが、女性陣は芸達者で、今でも琉球舞踊が舞われます。若いころは男性陣も踊り、座が

大いに盛り上がったものでした。

旅行もよく行きました。旅先はやはり内地の温泉。二、三泊の旅行で、九州から北海道まで有名な温泉地はほぼ網羅しました。旅先での宴もさることながら、泉質や工夫を凝らした広い風呂、露天が楽しくて、宴の前後にそして朝目覚めた後にと、日に三度も四度も入浴を楽しんだものです。ハワイへの海外旅行も実現しました。皆で歩いたワイキキの賑わう風景を懐かしく思い出します。



宮城中七期会同窓会 (二〇〇七年)

私たちが中学生の頃は宮城島はまだ離島で、日帰りの遠足は船で渡り、慶名へ林中部農学校を見学するものでした。大いにも

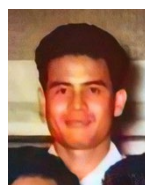
クワクワしたものです。時代の移り変わりを感じます。

今年は七期会のメンバーも83歳。運営や催しは互いの体調を考慮しながら進めて行きます。メンバーの親睦を保ち、そして故郷の島の発展を願う、この思いはこれからもず



つと共有されていくことと思います。(聞き取り：山下)

？私はだれでしょう？



あとがき
9か月ぶりに発行にこぎつけました。みやわし第10号をお届けします。投稿にご協力いただいた東江信雄さん、喜屋武磯江さんに深く感謝いたします。(広報担当 山下)

公園愛護だより



宮里公園、宮里第二公園の清掃管理を地元の「公園愛護団体」が担う。同団体から毎月月末に市長宛ての委託報告書が出され、文章を喜屋武磯江さんが担当する。本文は4月分より転用掲載しました。



ゲームを楽しむみやわし会の皆さん(宮里公園)

旅立ちの4月、公園に暖かい光が差し込む。まるで朝日まで生き物のよう。ゆったりとあたり一面を暖かく包んでいるようだ。

新年度が始まった。新入生は勉学に励み頑張っている。真新しいスーツに身を包んだ新入社員たち、そして新天地で新たな生活を迎える人たちは、ときに逆風にあおられることもあるでしょう。時代の風を読みながらそれぞれの夢の実現へ向けて、たくましくとびまわってほ

しいと願う。

公園では木々たちも新芽を次々と出し始めた。小鳥たちは春が来たと明るくさえずる。公園の朝はいつものどかで楽しく、会話ははずむ。

大量の落ち葉や、変わらないいつものゴミの散乱を清掃しながら交わす会話もまた楽しい。ひところのようないたずらの跡が少し見受けられなくなったことに、それぞれの成長を感じ取りたいと思う。

喜屋武磯江



くつろぐ公園愛護団体の皆さん(宮里公園)